

全国36校51チームが国際問題を議論

# 第四回全日本高校模擬国連大会レポート

## Global Classrooms in Japan 2010

横浜でAPEC首脳会談が開かれていた2010年11月13・14日。

東京・渋谷区の国際連合大学の会議場では、高校生たちが激論を交わしていました。

高校生が世界各国の大使に扮して国際問題の解決策を探る、模擬国連の全国大会です。

国際社会に対する理解を深め、交渉力や問題解決能力が鍛えられる

教育プログラムとして、高校現場での実践が広がっている模擬国連。

今年度で四回目となる大会の様子をレポートします。

取材・文／藤崎雅子

### 高校生が大使役となり 安保理改革に挑む

設定された会議は国連総会本会議。議題は「安全保障理事会の議席拡大と衡平配分」だ。常任理事国の適正数や拒否権のあり方など課題の多い安保理の改革に向け、2人1組の大使(役の高校生)が世界各国の実際の方針に沿った改正条項案の決議を目指す。日本やインドなど常任理事国入りを画策して枠の拡大を主張する国、それに反対するアルゼンチンや韓国などの国、スイスやシンガポールなど安保理の透明性の強化を求める国…主義主張の異なる51カ国が一堂に会している。「コックツ」。木槌を打つ音とともに発せられた議長(役の大学生)の英語での開会宣言によって、初日の会議が幕を開けた。

第四回全日本高校模擬国連大会に参加しているのは、小論文等による一次選考をくぐりぬけた36校51チームだ。どのチームもあらかじめ英語で作成した決議案を用意し、交渉の行方に応じて修正できるようパソコンも持参している。

模擬国連のプログラムでは、会議そのものだけでなく、事前準備と事後のレビューも重要視される。準備で要となるのは、担当する国について知ることだ。

「担当国が議題に関してどのようなスタンスをとっているか、インターネットで外務省やJICAの資料、過去の会議での発言録などをリサーチします。そこでは英文の資料を参考にすることも少なくありません

#### 図1 模擬国連とは?

参加者一人ひとりが世界各国の大使となり、実際の国連会議で扱われている問題を話し合うことによって、国連会議を再現し、国際問題の難しさを理解すると共に、問題の解決策を探ろうとするディベート。1923年、アメリカのハーバード大学での模擬国際連盟を起源に持ち、その後世界中に広まった。日本では1980年代より、大学生を中心として活動。近年は中学・高校でも、授業やクラブ活動などに取り入れられるようになってきた。

ん。また、担当国の大使館に取材を試みたり、国際政治を専門とする大学教授に取材したりもしました」(国際大会派遣OB・桐蔭学園中等教育学校6年柴原一貴さん)。

そうして集めた情報をもとに、チーム内で話し合っ  
て戦略を立てて会議に臨む。会議の目標は多くの賛  
同者を得て決議案を可決させることだが、そのプロセ  
スにおいて各チームは交渉術を競うことになる。本大会  
で入賞した5チームは、主催者の支援のもと来る5月  
にNYで行われる国際高校模擬国連大会に派遣され  
る。このチケットは、参加者が目指すもう1つの栄誉だ。

また、大会を運営するスタッフにも注目しておきた  
い。会議監督や議長などのフロアマネジャーを務める  
のは、模擬国連を通じた人材育成を目的に大学生を  
中心に組織されるグローバルクラスルーム日本委員会  
のメンバーだ。さらに過去の国際大会に参加したOB・  
OGの大学生や高校生も、会議進行や参加者対応の  
サポートに当たっている。企業のバックアップもあるが、  
彼らの企画力や行動力がこの大会を支えている。



自由時間に交渉を進め、少しずつグループが形成されていく



公式討議では議長が発言を行いたい国を募集。順番に英語でスピーチする



会議の準備から当日の議事進行まで大学生のスタッフが行う



開会式では元国連事務次長・財団法人国際文化会館理事長の明石康氏が講演

## 日本人の価値観から離れ 担当国の首脳として未来を考える

会議は順番に英語でスピーチを行う公式討議や、席を離れて日本語で交渉を行う非公式討議を繰り返して進行していく。その中で、主張が似た国同士、あるいは地理的なつながりのある国同士が接近。共同で決議案提出を目指すグループが、あちこちに形成されていく。昼休み。カリブの小国バルバドスの大使2人の周囲には、誰もいなかった。「このままではマズイ」「交渉メモを書こう」。2人はねらいを定めたいくつかの国に向けて呼びかけるメモを、休憩時間をめいっばい使って黙々と書いた。彼らは午前中の討議の中で、いくつかのグループ内の意思疎通に微妙なずれがあることを見逃していなかった。

「担当国の大使になりきることに」。そこに模擬国連の難しさがある。日本とは違う立場にある国を担当することで、自分が当然と思っていた物事の見方をリセットしなくてはならないからだ。例えば今回の議題である安保理改革では、日本人としては常任理事国の定数増を望みたいところだが、それに反対する国を担当したら逆の主張をすることになる。あるいは核拡散防止条約に関する議題であれば、核保有国を担当した場合は「核はいけないもの」という日本人に染みついている価値観を脱ぎ捨てる必要もある。

このように視点を変えて世界を見つめ直すことに、経験者は難しさと同時におもしろさを感じるという。

「自分がこの国の首相だったらどう扱うだろう、どうしたら国がよくなるだろう」と考えるのが、模擬国連の醍醐味。のちにその国はまったく別の発言をするかもしれませんが、自分がベストだと考えた政策を提示することに意味があると思います」(OG・渋谷教育学園渋谷高校2年 大島華奈さん)

## カギとなるのは、英語力よりも 考えをしっかりと伝えられるか

初日から波乱があった。大国アメリカが決議案提出を断念したのだ。一方、バルバドスは着実に仲間を増やしていた。初日終了時に4つの決議案が受理されたが、その1つはバルバドスをはじめとする小さな国々が共同で提出したものだ。2日め、各国大使は採決に向けた賛成票集めに奔走。可決には過半数の賛成票が必要だ。決議案のコンバイン(統合)により票をまとめるためのかけ引き、あるいは決議案を提出していない国を自国の案に引き込む交渉が進んでいく。公式討議中も各国間を飛び交う交渉メモ。賛同者を増やそうと熱弁をふるう大使。投票時間が近づき、議場の興奮はピークに達していった。

国際会議は独特の進行方法や専門用語があり、高校生には最初、少し難しく感じられるかもしれない。しかし、グローバルクラスルーム日本委員会理事長で国際基督教大学3年の小椋山歩さんは、「高校生が取り組む場合は、形よりも内容が重要。国の視点で国際問

題を議論し、理解することを第二に考え、ルールにとらわれないほうがいいでしょう」と話す。最初は、例えば国連で出す弁当を決めるなど柔らかい議題を設定し、ひととおりの流れを体験するとやりやすくなるという。

もう1つ気になるのは「英語」だろう。特に国際大会

### 図2 大会概要

**【大会名称】** 第四回全日本高校模擬国連大会 (Global Classrooms in Japan 2010)

**【開催期間】** 2010年11月13日(土)・14日(日)

**【設定会議】** 国連総会本会議

**【議題】** 「安全保障理事会の議席拡大と衡平配分および関連事項」

**【使用言語】** 公式討議:英語、非公式討議:日本語、文書:英語

**【参加校】** 36校51チーム(応募47校75チームより選抜)

北海道/札幌聖心女子学院高校 茨城/茗溪学園高校 埼玉/コロンビアインターナショナルスクール、埼玉県立伊奈学園総合高校、埼玉県立浦和第一女子高校、早稲田大学本庄高等学院 千葉/渋谷教育学園幕張高校、千葉県立東葛飾高校、東邦大学付属東邦高校 東京/麻布高校、海城高校、駒込高校、品川女子学院高等部、渋谷教育学園渋谷高校、順天高校、頌栄女子学院高校、聖心女子学院高等科、筑波大学附属駒場高校 神奈川/栄光学園高校、公文国際学園高等部、聖光学院高校、桐蔭学園中等教育学校 山梨/北社市立甲陵高校 長野/長野県長野高校 静岡/不二聖心女子学院高校 愛知/清林館高校 大阪/関西学院千里国際高等部、帝塚山学院泉ヶ丘高校 兵庫/小林聖心女子学院高校、灘高校 岡山/岡山学芸館高校、岡山龍谷高校 山口/高水高校 徳島/徳島文理高校 香川/香川誠陵高校 沖縄/昭和薬科大学附属高校

**【主催】** グローバル・クラスルーム日本委員会/日本模擬国連

**【後援】** 文部科学省、外務省、経済産業省、国際連合大学、国際連合広報センター、財団法人日本国際連合協会

**【協賛】** メリルリンチ日本証券株式会社、三菱商事株式会社

**【協力】** 株式会社リクルート、理想科学工業株式会社



会議中に発言を求めてプラカードを挙げる各国大使



会議中、交渉相手へのメモを頭上にかざすと、OB・OGのスタッフが受け取り配達



状況に応じ、その場でパソコンを使って決議案を修正



提出された決議案の一部。正式な形式に則って作成される

調整が不十分で決議案が受理されなかったグループも出る中、最終的に投票にかけられたのは2案だった。ひとつはアフリカ連合が中心となり、常任理事国増加を唱える案。そしてもうひとつが、バルバドスに属するグループと、同じく常任理事国増加に反対する韓国やロシアのグループの案がコンバインされた修正案だ。両案でくい違いのある部分について

## 社会を生きるなかで「協調」が いかに大切かを知る

「海外の学生は、常にいち早く前に出ていく姿勢で、彼らの積極性とプレゼンテーション能力に圧倒されました。日本人はもっとハングリーな精神で立ち向かうことが大切だと感じます」(OG・慶応義塾大学2年 奥谷聡子さん)

となると「帰国子女でもない限り無理」と思われるかもしれない。しかし、過去には「初めて飛行機に乗ったのが国際大会参加のとき」というOGがいたり、必ずしも英語が堪能な生徒ばかりではなかった。「語学力の不足を何で補うかを考えることが大切」と、OGで聖心女子学院高等科3年の衛藤菜生さん。話すのが苦手なら、資料を作って提示する交渉もある。また、あるOBは、電話帳ほどの厚さの想定問答集を作り、議論がどう展開しても対応できるように準備したという。「語学力も必要だが、自信を持って考えをしっかりと相手に伝えることはもっと大事」だと、過去の大会で入賞し国際大会に参加したOB・OGは口をそろえる。

### INTERVIEW 国際大会派遣OB・OG

#### 模擬国連の経験は「今」にどうつながっているか

●「私の出身校・公文国際学園は模擬国連が盛んで、活動を通して政治に興味を持ち、政治学科に進学しました。今は大学で学ぶかわら、G8諸国の大学生・大学院生により模擬的に行われる『G8 ユース・サミット』の活動をしています。昨年5月にカナダで行われた大会には、日本代表として参加してきました。模擬国連では他国の大使という立場から国際問題を考えましたが、G8ユース・サミットでは日本の立場に立って経済大国がどう世界をリードしていくかを考えます。模擬国連とはまた違った方向からのアプローチにより、少しずつ世界における日本の姿が見えてきて、政治のおもしろさを感じているところです」(慶応義塾大学2年 野口 藍さん/写真左)

●「高校時代に参加した国際大会では、英語に自信がなかったので、様々な方法を駆使してある国と一生懸命交渉したんです。すると最終的に『OK! Ideal』と手を差し伸べられ、すごくうれしかった。将来、国際社会でこのように人と交渉して何かを作り上げる仕事をしたい、と強く感じた瞬間でした。また、全日本大会では『気候変動』をテーマに議論したのですが、それ以来、環境問題が私の関心の中心になりました。大学で国際法や国際条約の有効性について研究しながら、環境NGOで働いたり、高校生対象の環境教育のイベントを運営したり、環境問題に関する活動も行っています。一生このテーマを扱っていくことになりそうです」(慶応義塾大学2年 中湊 綾さん/写真右)



は、双方が歩み寄った。投票では、各決議案について「Yes」「No」「Abstention」のいずれかを各国が順番に答えていく。その結果、アフリカ連合案は否決。ただひとつ、バルバドスらの案が可決された。

高校生たちの様々な会議行動を、グローバルクラスルームの選考委員がつぶさに観察していた。その結果から最優秀賞、優秀賞が選ばれた。優秀賞を受賞したのは、麻布高校、香川誠陵高校、渋谷教育学園幕張高校、灘高校の4チーム。このうちの2チームは決議案提出をあらかじめグループだが、事前の入念なりサーチや予想外の展開にもくじけられない行動が評価された

#### 高校での取り組み事例②

#### 静岡・私立不二聖心女子学院高校

### 総合学習の授業で1学年全員が挑戦

不二聖心女子学院高校では、環境学習をテーマにした1学年の総合的な学習の時間に、地球温暖化対策を議題とした模擬国連を取り入れている。活動はクラス単位で、英語力などを考慮して3人で1チームを編成し、くじびきで担当国を設定する。担当国の基本情報や過去の国連総会での発言録などをと、夏休みに各国の論点をまとめたポジションペーパーを一人ひとりが作成。それを休み明けにチームで集約し、国としての政策を打ち出す。2月に3~4回に分けて模擬国連会議を開き、投票による決議まで行っている。「最初は『難しい』と言う生徒も多いですが、実際に始めると発言録の難しい英文にも頑張って挑んでいます。交渉し協力して何らかの解決策を見いだしていくプロセスに、おもしろさを感じているようです」(野村春美先生)。

#### 高校での取り組み事例①

#### 埼玉・県立浦和第一女子高校

### 過去の大会に参加した先輩が後輩を育成

これまでの全日本大会で優秀賞を2回受賞した実績をもつ埼玉県立浦和第一女子高校。毎年、全日本大会への参加希望者を募って活動している。指導に当たるのは、留学生の受け入れおよび派遣、ディベートなどを管轄する国際交流委員会の教員だ。「指導で大切にしているのは、生徒の気持ちに火を点けること。最初に少し手をかけて意欲を引き出せれば、あとは放っておいても生徒は自分たちで進んでできるようになります。他校との合同練習会も生徒に刺激を与え、ますますやる気になります。また、参加を重ねていくうちに先輩や卒業生が後輩の面倒を見てくれるようになり、教員は生徒のモチベーションが下がらないように励ますだけです」(柿岡俊一先生)。教員の入れ替わりの多い公立高校でも、活動を継続する体制が着実にできつつあるようだ。



会議が終了し、参加者の緊張が緩んで和やかなムードに。最前列が入賞チーム



「本大会で1つでも新しいつながりを」とグローバル・クラスルーム日本委員会 小倉山歩さん



グローバル・クラスルーム日本委員会評議会議長を務める大阪大学大学院の星野俊也教授



修正案の締め切り時刻が迫り、各グループは最終調整に必死

### 図3 入賞チーム

#### 【最優秀賞】

桐蔭学園中等教育学校 (Barbados)

#### 【優秀賞】

麻布高校 (Republic of Korea)  
香川誠陵高校 (Czech Republic)  
渋谷教育学園幕張高校 (Russian Federation)  
灘高校 (United States of America)

#### 【ベストポジションペーパー賞】

聖心女子学院高等科 (Brazil)

※( )内は担当国。最優秀賞、優秀賞のチームを国際模擬国連大会に派遣。「ポジションペーパー」とは会議の準備のために作成する資料で、自国の政策をまとめたもの

「この2日間を振り返ってみてください。皆さんは、自分を知り、相手を知り、自分のことを相手に伝え、最後は協調していくということができましたか。模擬国連で求められるこの4点は、国際社会だからという

という。そして最優秀賞に輝いたのは、バルバドス大使を務めた桐蔭学園中等教育学校のチームだった。「この2人は常に落ち着いて行動し、グループ内と外とで役割を分担させていました。グループ内においては論理的な説明を行うことによって他国間の信頼を得てみんなをまとめ、グループ外においては議場の状況を的確に把握し、取るべき会議行動を常に2人で分析していました。さらに初日にたくさんの方を集めてグループを形成することに成功し、各国の役割を的確に割り当てて協力していました」(選考総括・東京大学3年 吉川歩さん)

以前に、社会で生きていくうえでも非常に重要なこと。私は毎日、ビジネスの世界で国内外の様々な人を相手に悪戦苦闘する中で、そう実感しています」  
すべてが幕を閉じた会場では、力を合わせたチームも敵対したチームも、一緒になって写真を撮ったり、連絡先を交換したり、「大使」が素の高校生に戻って交流していた。今大会開催のテーマは「つながり」だ。知識や世界とのつながり、そして大会で出会った様々な人ともつながってほしいという願いが込められている。そしてこの大会での経験が、それぞれの将来につながっていくことが期待されている。

### INTERVIEW 最優秀賞受賞者

#### 自国の国益と世界の安全のために カリブの小国が提案できることを考えた

●「安保理改革という大きなテーマに、バルバドスという小国でのぞものは非常にハードでした。準備では立花君と励まし合い、自国のメリットは何か、譲っていい点・いけない点は何かという軸を明らかにしたうえで、世界の安全の構築と維持のためにバルバドスは何が提案できるかを考えました。会議の序盤ではやはり交渉が難しかったのですが、ぼくたちの意見を尊重してくれたロシア、フランス、韓国などと意見を合わせることで、ぼくたちが認めるわけにはいかなかった案を阻止することができました。最初の苦しみを喜びに変換させることができ、大きな達成感を感じています」(桐蔭学園中等教育学校 5年 小島一真さん / 写真右)

●「正直に言うと、大会までは「模擬国連部は準備が大変だな」と思っていました。それが全国大会になって、やっと楽しさがわかってきた気がします。受賞には本当に驚きました。ぼくは人前でしゃべったりまとめたりするタイプではないので、小島君のおかげです。国際大会でも2人で頑張りたいと思います。模擬国連は自分の国籍にかかわらず担当国の大使になりきらなくてはいいませんが、繊細さなど日本人としての感性はそのまま生かせると思います。日本人のいいところと担当国のいいところの、両方を合わせて行動していきたいです」(同 立花裕太郎さん / 写真左)



### 【模擬国連に取り組みたい高校へ】

本大会を主催するグローバル・クラスルーム日本委員会は、高校での模擬国連活動の支援も行っている。同委員会のホームページでは模擬国連入門向けの資料のほか、過去の大会の議題解説書や会議の様子を収めた動画などが公開されており、新たに取り組みを始めた生徒、学校でも順を追って模擬国連に親しめるよう工夫されている。また、導入に関しての具体的な相談もメールにて受け付けている。

#### 【取り組みステップ】



※同委員会への相談

※一般の参加も可能な大学生の会議が頻りに開催されているので、そこで力試しをすることも可能

グローバル・クラスルーム日本委員会  
公式HP: <http://jmun.org/gc/> 問合せ: [gc@jmun.org](mailto:gc@jmun.org)

### 高校での取り組み事例③ 神奈川・私立桐蔭学園中等教育学校

#### 模擬国連部を結成。他校と交流しながら活動

桐蔭学園中等教育学校では、文化祭の課題研究で模擬国連に取り組んだことから、2年前に「模擬国連部」が誕生。現在、24人の部員が定期的に活動している。そこではユニークな議題も扱われる。「例えば、国連で支給する弁当のメニューを決める“国連弁当”会議。各国は宗教や生産物を考慮して交渉し、決議されたものを実際に食べながら振り返りをします。また、今ユニフォーム代わりに部でオリジナルのネクタイを作る計画があるのですが、そのデザインを国ごとに提案して決める会議を開く予定です」(橋本雄介先生)。

活動は校内だけにとどまらず、首都圏の高校数校と連携し、これまで8回の合同練習会を開催。生徒たちが委員会を組織して、企画運営面においても担うようになってきているという。